

# JavaScript による End-to-End セキュリティ AES はどうやって使えばいいのか？(共通鍵暗号の使い方) 編

栗原 淳

August 26, 2019

# はじめに

# はじめに

前回(第1回)は

- End-to-End (E2E) セキュリティの原則と必要性
- Web サイトでの E2E セキュリティ実践のため、JavaScript での暗号 (AES) の利用のさわり

を勉強した。

E2E セキュリティの重要性はわかった。  
AES を使ってみることもできた。

でも、実際の App で正しく・安全に AES を使うにはどうすべきなのか？

今回は正しく・安全にAESを使ってみる方法、についてのお話。

### この講義で最終的に学びたいこと

- パスワードを使って AES 暗号化はどうすればいいか?<sup>1</sup>
- 固定バイナリ値を使って AES 暗号化はどうすればいいか?<sup>2</sup>

たったこれだけ。

---

<sup>1</sup>RFC8018 PBES2 <https://tools.ietf.org/html/rfc8018> による AES 暗号化

<sup>2</sup>RFC5869 HKDF <https://tools.ietf.org/html/rfc5869> による鍵導出と AES 暗号化

たったこれだけでも、気をつけなければならない「重要なお作法」がある。

お作法を守る・守らないで安全性は大違いなので、注意しなければならない。<sup>3</sup>

---

<sup>3</sup>世の中のソフトウェア、全くお作法を守ってないのがあって…危険…最近だと php の `hash_hkdf()` がお作法守ってなかった(2018年)。

# この講義の対象と事前準備

対象:

- 暗号・セキュリティ技術に興味がある初学者
- Web に暗号技術を導入したい Web 系のエンジニア

必須ではないが触って楽しむのには必要な事前準備:

- Git が使えるようになっていること
- Node.js が使えるようになっていること
- Google Chrome 系ブラウザ and/or Firefox が利用可能のこと

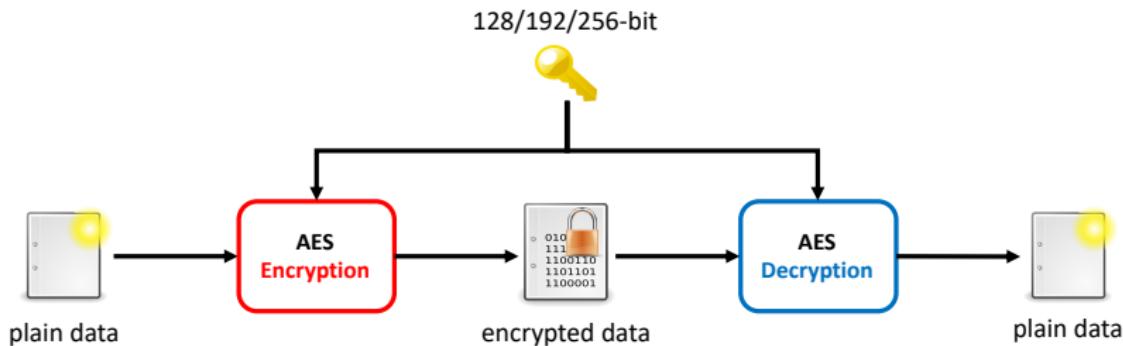
# AESの使い方 事始め

# 復習: AES (Advanced Encryption Standard) とは？

## AES

米国 NIST の標準暗号アルゴリズム (※共通鍵暗号)

- 鍵長は 3 種類: 128-bit, 192-bit, 256-bit
- 欧州 NESSIE、日本 CRYPTREC などの標準規格としても採択
- 現在まで致命的な欠陥は見つかっていない、安全性の高いデファクトスタンダードのアルゴリズム



AES を使う際に気をつけるお作法は、ざっと 3 点。

- 1 AES で使う鍵のランダム具合
- 2 AES で使う鍵を総当たりする際の大変さ<sup>4</sup>
- 3 AES の利用モードの安全性

つまりどういうこと？

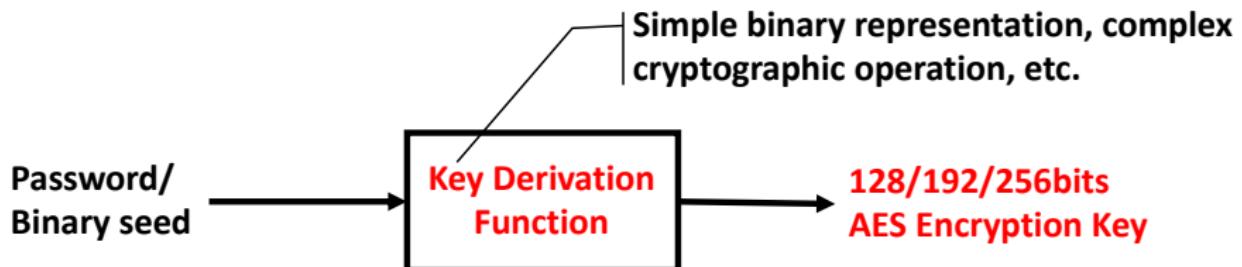
---

<sup>4</sup>1 点目と 2 点目は似ているようで異なる。

## 準備: パスワードとかを使った AES 暗号化のポイント

パスワード ≠ AES 暗号化の鍵

パスワードやバイナリ値を元にして AES 暗号化するためには、  
「パスワード等を変換し、AES 暗号化の鍵を導出」することが必要



# 1: AES で使う鍵のランダム具合？

⇒ 過去の利用履歴も含めたランダムさのこと

つまり…

- 過去に暗号化を使った鍵は二度と使わない
- 暗号化の鍵は、過去の鍵から<sup>5</sup>は容易に導出できないものへと毎回ランダム変更する

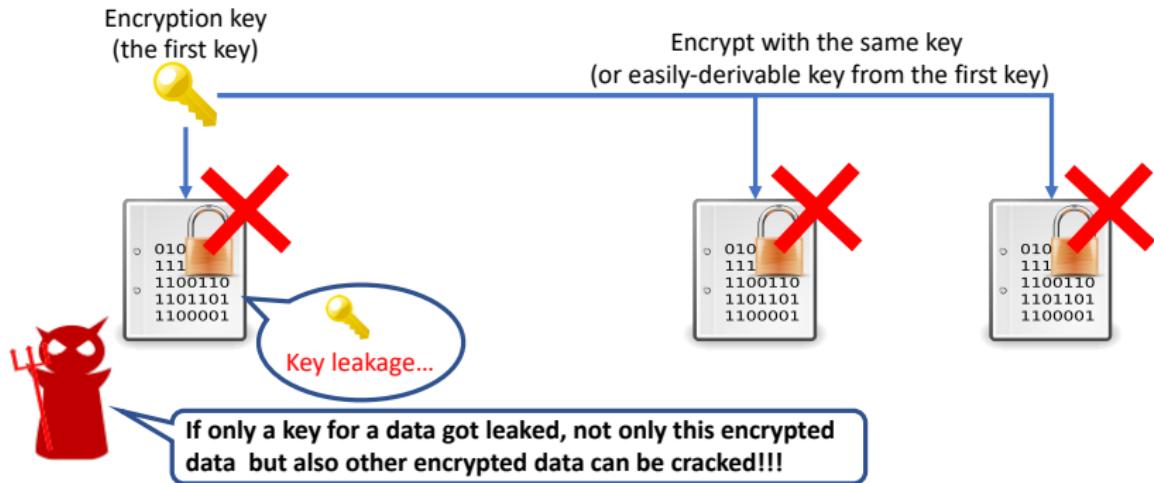
ということ。

---

<sup>5</sup> および未来に使う鍵からも

…なぜか？

⇒ 鍵が1つ漏れてしまうと、過去の暗号化データまで一網打尽…。

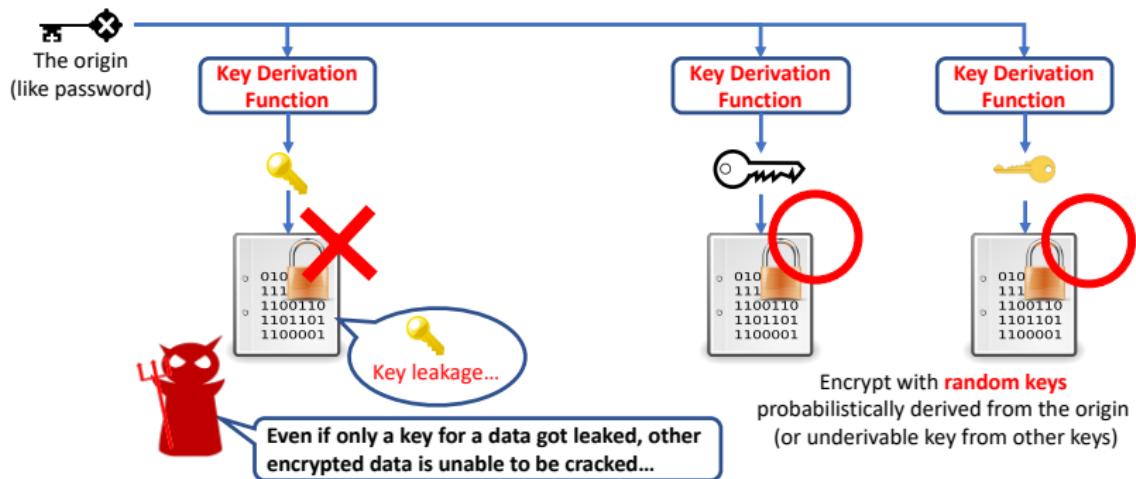


なので、万一鍵が1つ漏れちゃったとしても、他の暗号化データにまで影響が出ないことを保証しなきゃならない。<sup>6</sup>

<sup>6</sup>これを保証することを(Perfect) Forward Secrecyとか呼ぶ。

だが、暗号化毎のパスワード等のランダム変更は非現実的。

⇒ 固定パスワード等からランダムに鍵を導出する方法を使う<sup>7</sup>。



※ただし、固定パスワード等そのものが漏洩した場合はこの場合でもアウトなことに注意

<sup>7</sup>PBKDF2 (RFC8018), HKDF (RFC5869)

## 2: AESで使う鍵を総当たりする際の大変さ？

⇒ 総当たり攻撃のためのコストのこと。

※特にパスワードを使って暗号化する場合に重要

暗号化データに対する総当たり攻撃

鍵の候補を全通りを一覧で用意して、「当たり」を見つけるまでとにかく復号を繰り返すこと。

つまり総当たり攻撃のコストは、「ストレージ量」と「計算量」。  
このコストを払うことが非現実的に高くなければヤバい。

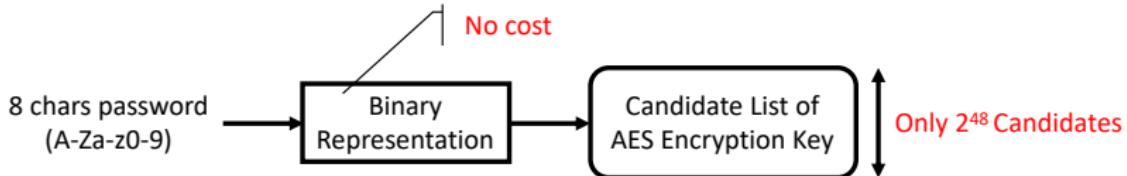
## 8桁パスワードを単純にバイナリ化して鍵としてしまうと…

大小英数字8桁パスワードは  $62^8 < 2^{48}$  通り。

⇒ 48bits の全通りの準備は、高々 1.5PB。

⇒ ストレージなしでも、パスワード候補を都度バイナリ化するだけで復号を試行可能。

割と簡単に「当たり＝バイナリ鍵」が見つかってしまう。<sup>8</sup>



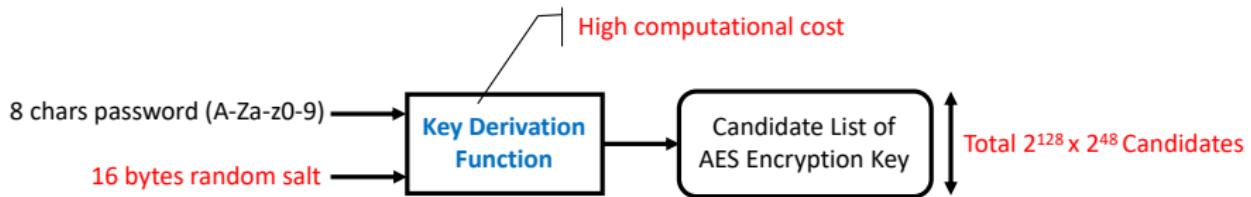
<sup>8</sup>2009年当時でもスパコンを使って60時間とか。今だとGPUで並列化すればもっと高速になる。<https://web.archive.org/web/20180412051235/http://www.lockdown.co.uk/?pg=combi&s=articles>

なので、短いパスワード等から鍵を作るときは、コストが膨大になるような変換をする。

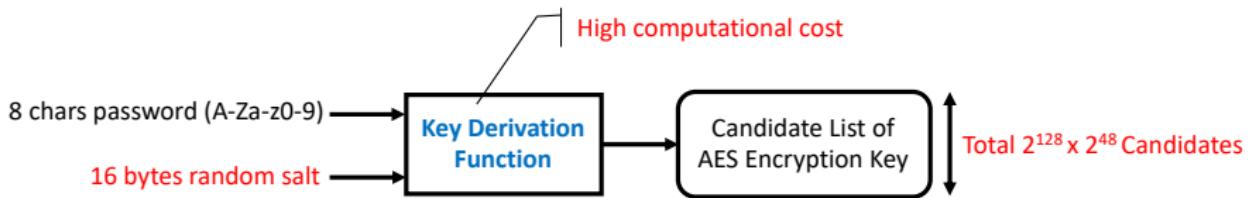
パスワード等から暗号化の鍵を作るとき、

- 毎回使い捨てのランダム値 (Salt と呼ぶ) と混合して、AES 暗号化の鍵のランダム性を上げる。
- 計算コストの高い演算を使う。

という処理を行う。<sup>9</sup>



<sup>9</sup>PBKDF2



- ランダムな Salt と混合することで、**鍵候補全通りの事前準備のストレージが膨大になる**
- ストレージなしで試行しても、計算コストの高い演算のせいで、**鍵候補を都度生成→復号の計算コストが莫大になる**

「お作法 1」と合わせて 1 つの関数で実行することが多いが、AES 暗号化の鍵を作る際に意識する重要なポイント。

### 3: AES の利用モードの安全性？

⇒ AES の API で設定できる利用モード ('AES256-CBC' とか) と、そのパラメタ設定の適切な設定が必要。

#### AES の「利用モード」

AES の処理 1 回で暗号化できるのはたった 16bytes にすぎない。長いデータを連続で暗号化するために、**暗号化処理を連続して組み合わせる方法**が利用モード。

## 「とりあえず AES を使う」ためのポイントは2つ

- 初期ベクトル (IV) というパラメタは都度ランダム値にする<sup>10</sup>。
- CTR モード・CBC モードあたりを使う。ECB モードは絶対に使わない。

前者、「過去に暗号化したデータとの相関をなくす」ために必要なパラメタ設定。

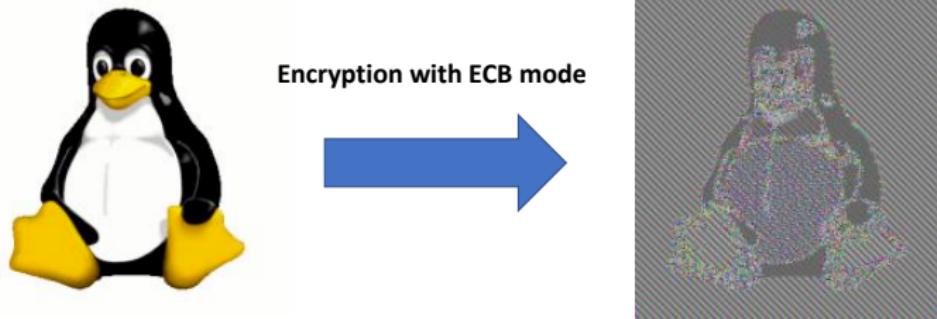
後者、ECB モードは論外 (これが言いたいこと)。

---

<sup>10</sup> API によって、ナンス (Nonce) というパラメタもあればそれも。

どうして ECB モードは論外なのか？

- ⇒ 元のデータの中で「同じ値のブロック<sup>11</sup>」は、暗号化データにおいても必ず「同じ値のブロック」になる。
- ⇒ 暗号化されてても中のデータが何かというのが予測可能…



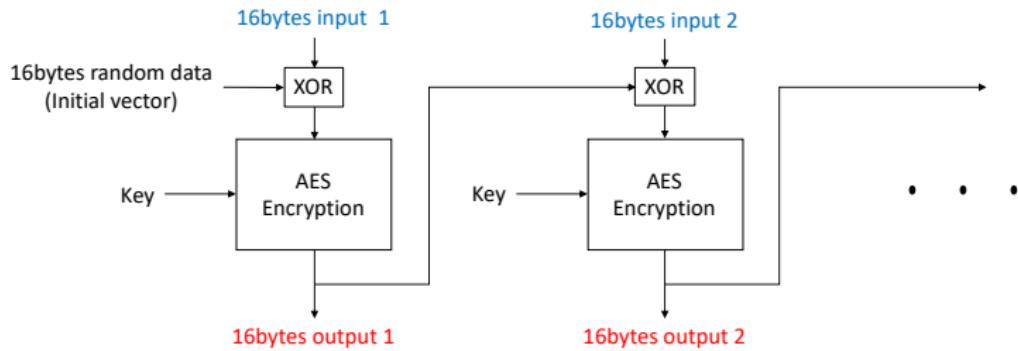
Original images are given by Larry Ewing  
([lewing@isc.tamu.edu](mailto:lewing@isc.tamu.edu))

というわけで、JavaScript 以外でも、たとえ選べたとしても絶対に ECB モードは利用してはいけない。

<sup>11</sup> ブロックは 16Bytes 単位

ECB モードと違って、CBC モードではそういうことが起きない。

- 先頭の 16Bytes はランダムな初期化ベクトルと混ぜる
- 前の 16Bytes の暗号化データを混ぜて次の 16Bytes を処理

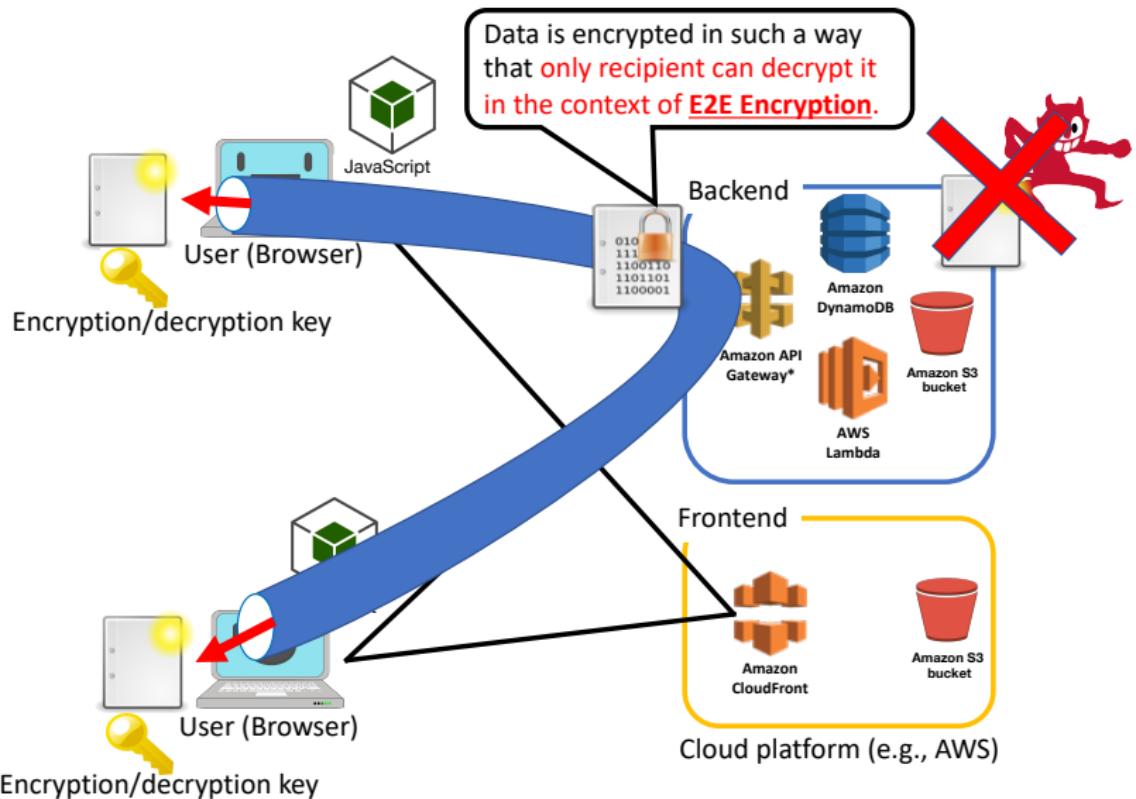


CBC モードの 16Bytes 毎の処理

# AESの使い方: とりあえず暗号化してみよう

# 今回のセッティング

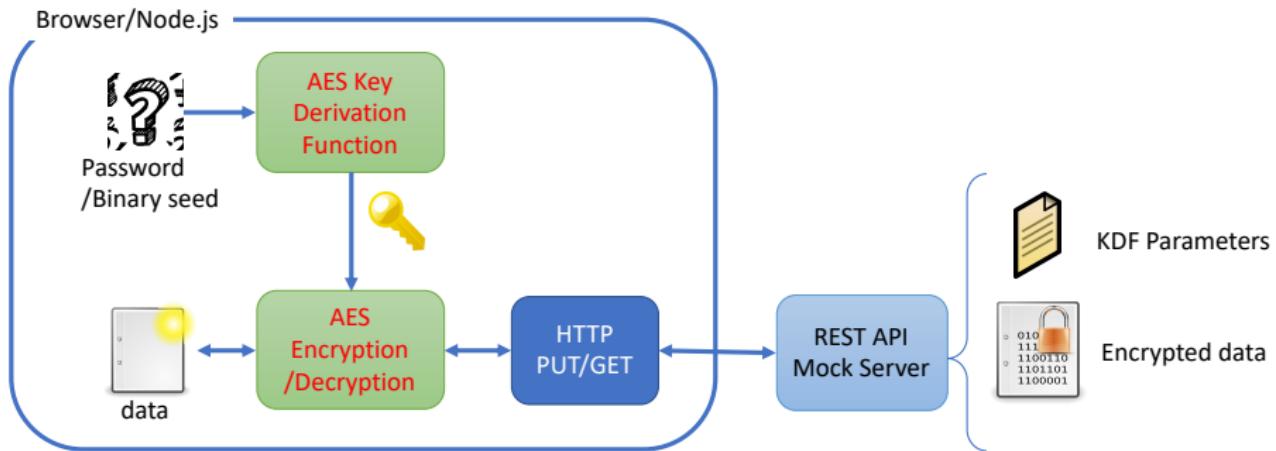
前回同様の REST API サーバを介した E2E 暗号化。



ブラウザ・Node.js をエンドとし、

- 1 「パスワード」「バイナリデータ」から鍵を導出し<sup>12</sup>
- 2 それを使って AES-CBC モードで暗号化して<sup>13</sup>

REST API で暗号化データを登録してみる。



<sup>12</sup> お作法 1,2

<sup>13</sup> お作法 3

以下の環境が前提:

- Node.js (> v10) がインストール済<sup>14</sup>
- ブラウザとして、Google Chrome (系ブラウザ)、もしくは Firefox がインストール済み
- Visual Studio Code や WebStorm などの統合開発環境がセットアップ済みだとなお良い。

---

<sup>14</sup>npm に加えて yarn も使えるとなお良い (インストールコマンド: npm i -g yarn)

# JavaScript プロジェクトの準備

- プロジェクトの GitHub リポジトリ<sup>15</sup> を Clone

```
$ git clone https://github.com/zettant/e2e-security-02  
$ cd e2e-security-class/sample
```

- 依存パッケージのインストール

```
$ yarn install or npm install
```

- ライブラリのビルド

```
$ yarn build or npm run build
```

---

<sup>15</sup><https://github.com/zettant/e2e-security-02>

# REST API モックサーバの準備

今回は SSL 接続可能な共有サーバを準備済  
(<https://e2e.zettant.com/>)。

別途、検証用のサーバをローカルで立ち上げ可能。

モックサーバの立ち上げ

```
$ yarn start
```

起動すると、localhost の 3000 番ポートで HTTP リクエストを待ち受け開始する。

# パスワードで暗号化してみる

pbkdf 使え

# バイナリ鍵で暗号化してみる

hkdf 使え

# 危ない暗号化モードで暗号化してみる

ecb とか論外だから cbc とか使え

# AESの使い方: 細かめの解説

# PBKDF2 の使い方 in JavaScript

jscu なら動くよ

# HKDF の使い方 in JavaScript

# 暗号化モードの設定

cbc 云々。

js でのサポート具合を列挙

# まとめ

# まとめ

お疲れ様でした。



次回以降…リクエスト次第ですが、

- 公開鍵暗号とその使い方
- 「情報が改ざんされてない」ことを保証するために（電子署名と MAC）
- RFC とアルゴリズム・フォーマット

などを予定。

# 宣伝 1

E2E 暗号化ファイル転送サービス「iTransfy」を提供しています。

## 宣伝 2

Zettant ではイケイケの仲間を募集しています。



- 1 今回は共通鍵暗号
- 2 公開鍵暗号& Hybrid Encryption
- 3 ハッシュ・署名と HMAC
- 4 超マニアック講座：RFC とアルゴリズム・フォーマット

# Appendix

This page is not counted.